

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業名	体験農園支援事業			会計	款	項目	大事	小事
政策	05	5節	賑わいと活気に満ちた流山（産業の振興）	主管課	農業振興課			
施策	5-4	多様な方面からの農業の振興		主管課長	安蒜 康志			

I 事務事業の目的・内容

事業目的	対象	市民	意図	野菜の栽培を通して都市型農業への理解が深まるようになる。
事業内容	市内で開設されている体験農園について、市民に向けた周知を図る。			
事業開始から現在までの状況変化	エコロジー意識の高まりとともに農業への関心を持つ市民が増加傾向にあるが、農業知識のない市民にとっては、専門家の指導の下で気軽に野菜の栽培ができる施設が求められている。そのため、市内で開設されている体験農園について広報誌を使ってPRに努めている。			

II 事務事業の実績・現状及び成果を表す指標の動きとコストの状況

指標	名称	平成26年度	平成27年度	平成28年度	単位	目標方向	算定式（成果指標の場合）
	①	市内で開設されている体験農園の数	3	2	3	園	→→
②							
③							
④							
⑤							
⑥							

指標で表すことができない定性的な成果

目的に対する現状（客観的事実・データに基づく現在の状況や取組状況）
 ◆広報誌、市ホームページを通して各農園の紹介を行っている。
 ◆各農園の利用者数の具体的な数値については、報告は得られないが、広報誌のPR後に問い合わせがある。

事務事業のコスト	平成26年度	平成27年度	平成28年度
事務事業の総コスト(a=b+c)	138,200	150,600	137,300
事業費(b)(円)			
うち一般財源			
職員給与費(c)(円)			
人役・職員(人)	0.02	0.02	0.02
人役・再任用(人)			
人役・臨職(人)			
人役・嘱託(人)			
初期投資コスト(円)（建設又は取得年度のみ記入）			
想定耐用年数（年）（建設又は取得年度のみ記入）			

III 事務事業の評価、今後の方向性及び業務改善 <※主管課長記入>

(1) 事務事業についての評価及び今後の方向性

個別評価	必要性	今後の必要性	B 必要性は変わらない	有効性	目標達成度	A 達成できた
		市関与の必要性	C 民間企業やNPOが担うべき	効率性	対象者の適切性	A 対象者は適切である
					コストの削減	A 削減の余地はない
総合評価	V 民間・NPO（民間企業やNPO、自治会などで代替可能である）					

(2) 事務事業の業務改善について

①今年度(H28)の改善計画	放射能問題に対する利用者の不安払拭	③取組の課題	放射能問題に対する利用者の不安払拭
②今年度(H28)に実施した取組	市内農作物の放射能濃度を測定し、ホームページに掲載して不安の払拭に努めた。	④今後の改善計画	体験農園に求める市民等のニーズの把握及び広報誌等でのPR活動